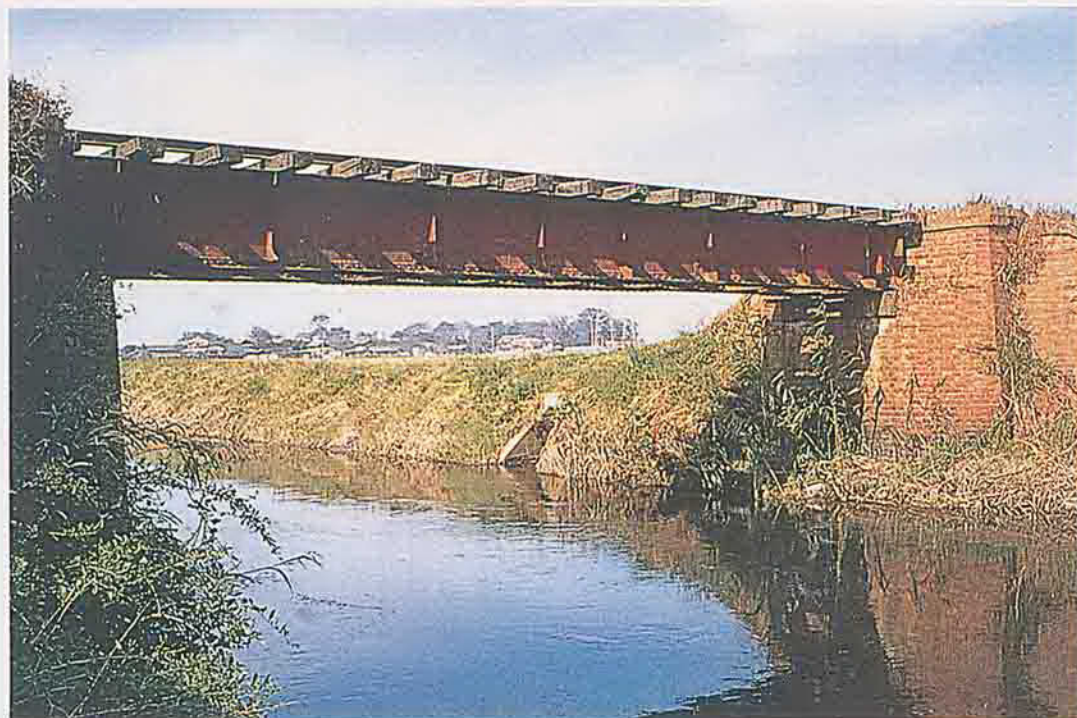


図書館だより

埼玉県立図書館

36号



(深谷市教育委員会提供)

福川鉄橋

明治二十八年、日本煉瓦製造株式会社の上敷免工場（現深谷市）は、製品を輸送するため、深谷駅に通ずる鉄道を敷設した。

そのさい福川に架けられたのが写真の鉄橋で、イギリス人ポーナルの作製した基本定規によって設計されたポーナル型のプレート・ガーター橋なのである。

ポーナル型は当時の鉄道橋の模範であり、それが現存しているのであるから、文化財としての価値は高い。深谷市では先年市の文化財に指定し、その保存策を積極的に講じている。

言うまでもなく、日本煉瓦製造株式会社は、明治財界に「徳の沢沢、智慧の益田」と賛えられた沢沢栄一や益田孝等のコンビによって明治二十年に創設された。この鉄道は沢沢栄一の英断の所産であり、以後社運の隆昌を招いた。

この引込線の用地は市が買収し、青洲翁ゆかりの下水道管が埋設され、また遊歩道として整備されつつある。

表4 視聴覚資料の収蔵状況

事項別	館別					合計
	浦和	熊谷	川越	久喜		
16ミリ映画フィルム	1,951 ^本	650 ^本	797 ^本	461 ^本		3,859 ^本
8ミリ映画フィルム	265	13	1	1		280
ス ラ イ ド	353	100	122	180		755
レ コ ー ド	4,365	1,088	1,375	3,282		10,110
合 計	6,934 ^本	1,851 ^本	2,295 ^本	3,924 ^本		15,004 ^本

表6 館外奉仕貸出冊数の現況

事項別	館別					計				
	浦和	熊谷	川越	久喜		浦和	熊谷	川越	久喜	
移動図書館(個人)	17,437 ^冊	1,495 ^冊	53,843 ^冊	59,353 ^冊	90,832 ^冊	31,256 ^冊	167,503 ^冊	105,253 ^冊	329,615 ^冊	197,357 ^冊
移動図書館(団体)	8,010	2,212	22,124	22,196	22,204	15,900	7,648	3,310	59,986	43,618
貸 出 文 庫	3,646	2,939	24,389	17,228	5,762	3,631	11,903	6,723	45,700	30,521
配 本 所	6,496	7,740	17,850	48,411	11,723	10,844	17,807	14,280	53,876	81,275
やまびこ図書館	—	—	14,378	10,700	—	—	—	—	14,378	10,700
合 計	35,589	14,386	132,584	157,888	130,521	61,631	204,861	129,566	503,555	363,471

表7 県立4館の図書館間貸出の推移

年度	浦和	熊谷	川越	久喜	計
58	3,827	2,154	2,547	1,947	10,475
59	4,448	2,082	3,147	2,227	11,904
60	5,399	2,887	4,091	3,546	15,923
61	6,221	4,676	5,858	4,358	21,113
62	6,439	5,669	6,913	5,041	24,062

表9 障害奉仕部門の活動状況

事項別	浦和	熊谷	川越	久喜	合 計
対面朗読利用人員並びに冊数	—	—	332 ^人 (538 ^冊)	88 ^人 (163 ^冊)	420 ^人 (701 ^冊)
対 面 朗 読 時 間	—	—	1,004 ^{時間}	522 ^{時間}	1,526 ^{時間}
テープ図書利用人員並びに本数	164 ^人 (941 ^本)	—	893 ^人 (5,502 ^本)	1,429 ^人 (8,846 ^本)	2,486 ^人 (15,289 ^本)
テ ー プ 図 書 作 成 時 間	—	—	1,641 ^{時間}	2,190 ^{時間}	3,831 ^{時間}
点字図書利用人員並びに冊数	369 ^人 (734 ^冊)	—	—	—	369 ^人 (734 ^冊)
マザーテープ完成数	—	—	208 ^本	154 ^本	362 ^本

図1 過去5年間に於ける県立4館の利用登録者数の推移

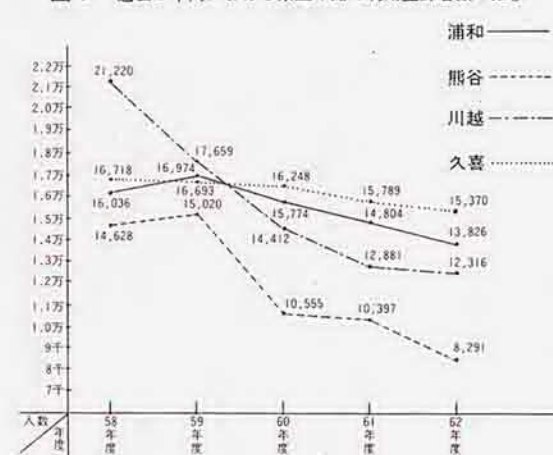
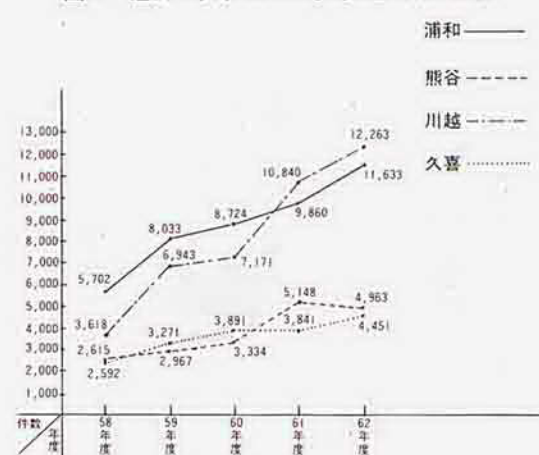


図2 過去5年間に於ける参考調査件数の推移



埼玉県立図書館の現状と課題

データは、その施設のもつ特性や施設を取りまく環境の変化を正直に映し出して私たちに伝えてくれる。データをよみながら、そこに映し出された「変化」を的確に把握し、施設運営にいかしていかなければならない。

さて、今日は生涯学習の時代だといわれるようになった。生涯を通じて学習へ取り組む人々の意欲と関心は急速に高まってきている。このようなかで、図書館が生涯学習の拠点施設だといわれ、図書館に寄せられる住民の期待が一層高まること予想される。

そこで、県立図書館のはたすべき役割は何かについて探り出す手がかりとして、いろいろなデータを作成し、活用していかなければならない。

1 埼玉県立図書館体制の現況

昭和五十五年度県立久喜図書館の完成をもって埼玉県立図書館四館体制は整備された。

その後、昭和五十五年十一月県社会教育委員会から「県立図書館の運営体制の整備について」と題して助言があり、以来それを十分尊重しながら図書館運営の充実に努めてきた。近年、市町村でも図書館の整備が進み、昭和六十二年四月一日現在、六三市町村で設置をみており、設置率は六八・五%となっている。(別表1参照)

これを県立四館の担当エリア別でみると、浦和、川越図書館管内が一〇〇パーセントの設置率に達して、熊谷図書館管内では三六パーセント、久喜図書館管内では四八パーセントと極めて大きな地域格差を生じている。したがって、これらの地域の実情を勘案しながら、今後県立図書館が担うべき役割は何かについて十分な検討が求められるところとなっている。

このような社会的背景のなか、県立図書館が具備している運営・施設設備体制は次の通りとなっている。

まず、組織構成では、館長、副館長以下、管理、館内・館外奉仕の三部八課(但し、熊谷のみ七課)制で、職員数一五一名となっている。

また、蔵書数では、別表2の通り館内・館外奉仕用図書を含めて、百五十二万二千七百七十四冊を数える。

なお、購入等による図書、新聞、雑誌の増加数は、別表3の通り、県立四館で、図書、新聞、雑誌がそれぞれ、五万八千八百六十六冊、百四十四冊、千三百四十四冊となっている。

そして、視聴覚資料では、16ミリ、8ミリ映画フィルム、スライド、レコードなど別表4の通り、合計一万五千本を収蔵している。

さらに、移動図書館の現況では、各県立四館管内の市町村立図書館整備の進捗状況に伴ない、浦和図書館では移動図書館車数、駐車場数が0となっているなど施設の立地する地域の実情により、大きな差違を生じている。

2 埼玉県立図書館の昭和六十二年の活動状況

まず、館内奉仕部門で、利用登録者数をみると、図1に示されている通り、五十八年度と六十二年度の過去5カ年間の比較でみると、県立四館ともに、減少傾向を呈している。これは、図書の貸出冊数においても、五十八年度の四館の貸出冊数総計百二十八万三千九百四十五冊に對して、六十二年では百五十二万二千八百二十六冊と大幅な減少を来たしている。これら現象の要因は、管内の市町村立図書館の整備が進み、館外奉仕部門でのB・M、団体貸出の大幅減少(別表6)によることが第一の理由にあげられる。また、市町村立図書館の整備によって、館内奉仕部門にあつても貸出冊数は市町村立図書館への傾斜が見受けられるのである。ちなみに、五十八年度市町村立図書館の貸出冊数八百七十三万四千七百七十九冊に對し、四年後の六十二年に於ては、一千二百二十七万五千四百九冊と大幅増を示している。

表1 県立4館担当エリア別の市町村立図書館の設置状況

事項別	館別	浦和	熊谷	川越	久喜	合計
市町村数		18	25	24	25	92
図書館設置市町村数		18	9	24	12	63
設置率		100%	36%	100%	48%	68.5%

表2 県立4館の蔵書数

事項別	館別	浦和	熊谷	川越	久喜	合計
蔵書		310,237	241,647	196,154	194,117	942,155
館外奉仕用		116,585	180,053	135,460	148,521	580,619
数	合 計	426,822	421,700	331,614	342,638	1,522,774

表3 62年度増加図書数並びに継続受入新聞・雑誌点数

事項別	館別	浦和	熊谷	川越	久喜	合計
図 書		15,355 ^冊	11,577 ^冊	11,882 ^冊	20,052 ^冊	58,866 ^冊
新 聞		37 ^冊	22 ^冊	20 ^冊	35 ^冊	114 ^冊
雑 誌		363 ^冊	207 ^冊	413 ^冊	361 ^冊	1,344 ^冊

ちなみに、浦和図書館では六十二年度一万一千六百三十三件を記録しているが、そのうち、五千七百八十五件が他の図書館間協力による件数であり、また図書館間貸出でも六十二年度、四館で、二万四千六百二十二冊を数える(別表7参照)など県立図書館に寄せられる期待の質的变化が読みとれるのである。

さらに、視聴覚資料は、学校や社会教育関係施設、団体等への貸出が多く別表8の通りとなっている。

また、障害奉仕部門の活動状況は川越、久喜図書館で多く、別表9の通りとなっている。

東 西 南 北	
7月～9月の 主な催し物	
■県立浦和図書館	
日時 7月9日(土) 14時	内容 「名作映画会」
日時 8月6日(土) 14時	内容 「ガキ大将行進曲」
日時 8月21日(土) 14時	内容 「社会文化映画会」
日時 8月25日(土) 14時	内容 「木曜映画会」
日時 8月30日(土) 14時	内容 「夏休み最後の子供映画会」
日時 9月10日(土) 14時	内容 「科学文化映画会」
日時 9月22日(土) 14時	内容 「郷土を知る映画会」
日時 9月29日(土) 14時	内容 「万葉のころ」
日時 10月6日(土) 14時	内容 「万葉の心」

東 西 南 北	
7月～9月の 主な催し物	
■県立熊谷図書館	
日時 7月2日(土) 10時・14時	内容 「名作映画鑑賞会」
日時 8月6日(土) 10時・14時	内容 「宮本武蔵」
日時 8月12日(土) 10時・14時	内容 「徳川慶喜公」
日時 8月26日(土) 10時・14時	内容 「夏休み子ども映画会」
日時 9月3日(土) 10時・14時	内容 「ミッキーマウスのお化け退治」
日時 9月10日(土) 10時・14時	内容 「スタン・バイ・ミー」
日時 9月17日(土) 10時・14時	内容 「ネバー・エンディング・ストーリー」
日時 9月24日(土) 10時・14時	内容 「バック・トゥ・ザ・フューチャー」
日時 10月1日(土) 10時・14時	内容 「風が吹くとき」
日時 10月8日(土) 10時・14時	内容 「ジャンピング」
日時 10月15日(土) 10時・14時	内容 「真夏の夜の夢」
日時 10月22日(土) 10時・14時	内容 「ビデオコンサート」
日時 10月29日(土) 10時・14時	内容 「東京メロディ」

東 西 南 北	
7月～9月の 主な催し物	
■県立川越図書館	
日時 7月2日(土) 10時・14時	内容 「名作映画会」
日時 7月9日(土) 10時・14時	内容 「小津安二郎監督「お早よう」
日時 7月16日(土) 10時・14時	内容 「夏休み子ども映画会」
日時 7月23日(土) 10時・14時	内容 「アカドク交響楽」
日時 7月30日(土) 10時・14時	内容 「村のりトル・インディアン」
日時 8月6日(土) 10時・14時	内容 「風車小屋のシンフォニー」
日時 8月13日(土) 10時・14時	内容 「ごんぎつね」
日時 8月20日(土) 10時・14時	内容 「小さなゆびひん」
日時 8月27日(土) 10時・14時	内容 「たにし長者」
日時 9月3日(土) 10時・14時	内容 「モリ」
日時 9月10日(土) 10時・14時	内容 「ドナルドダックと魔法使い」
日時 9月17日(土) 10時・14時	内容 「ふたりのローラ」

東 西 南 北	
7月～9月の 主な催し物	
■県立久喜図書館	
日時 7月7日(土) 14時	内容 「映画会」
日時 7月14日(土) 14時	内容 「埼玉県広報映画特集」
日時 7月21日(土) 14時	内容 「埼玉県広報映画特集」
日時 7月28日(土) 14時	内容 「埼玉県広報映画特集」
日時 8月4日(土) 14時	内容 「埼玉県広報映画特集」
日時 8月11日(土) 14時	内容 「埼玉県広報映画特集」
日時 8月18日(土) 14時	内容 「埼玉県広報映画特集」
日時 8月25日(土) 14時	内容 「埼玉県広報映画特集」
日時 9月1日(土) 14時	内容 「埼玉県広報映画特集」
日時 9月8日(土) 14時	内容 「埼玉県広報映画特集」
日時 9月15日(土) 14時	内容 「埼玉県広報映画特集」
日時 9月22日(土) 14時	内容 「埼玉県広報映画特集」
日時 9月29日(土) 14時	内容 「埼玉県広報映画特集」

浪沢青洲賛歌

鳥塚 恵和男

教育者であり歌人でもあった私の次兄・荏塚直四郎は埼玉師範卒業の大正十一年、浪沢栄一翁ゆかりの八基小学校(現深谷市)に奉職した。

そして帰省の次兄は、浪沢翁が生地血洗島の秋祭りに帰郷の様子など感激のおももちで家族に語り伝えたのであった。よって祖母や父母はじめ家族は翁をいつしか子爵様と呼びするようになった。

私はかかる家庭環境の中で幼少年時代を過ごすことができたのを何よりの幸せと感謝している。伝記への関心はそこで培われたようにさえ思うのである。

かくして浪沢翁の伝記資料を読みつぐと同時に、習いはじめた短歌をもつて、浪沢翁を詠んだものがいくつか手許に残るようになった。その中の五首ほど、拙作を顧みることに記してみたい。

青洲翁は甥の舞ふ獅子団十郎に次ぐ演技なりと村人に告ぐ

栄一の生家「中の家」は代々雄獅子を操るのが家例で、栄一もその名

手であつたと伝えられている。その獅子舞を大切にしたいと栄一は、秋の祭典における村人の演技を何よりの楽しみにしていたのであった。翁の獅子舞尊重の心を継承した血洗島ではいま後継者の養成に余念がない。

その獅子舞を生徒一途に愛し続けた一人として、今は亡き吉岡薫一さんがいる。氏の文化ともしび賞の受賞祝宴のさい、氏の友人のあいさつに私は大変心ひかれた。次の一首はその時のものである。

長病みのお獅子名手にその友は獅子館医業にまされりと説く

青洲翁を敬慕して語る吉岡さんの言葉や、吹く笛の音は私の心耳に刻まれて失せることはないであろう。

さて、浪沢栄一は三世の義を結んだ徳川慶喜公を、生涯介錯することなき偉人として尊敬し、「余の今日あるは一橋時代による」と感謝の心を終生忘れることがなかった。

「慶喜公伝」の自序一万四千字読み継ぎ重ね語るに備ふ

徳川慶喜公伝は、栄一が自らその編纂を天の使命となして完成した歴

史に残る名著である。私はその自序に魅せられて久しく、おりにふれては朗読に喜びを見出している。かくするうちに、青洲翁の息づかいもつかい知れるのではないかと思うようになった。

その自序を浪沢栄一の命あふるる小自伝とさえ思うこの頃なのである。前掲の歌は、ある先生のお目にとまり、「珍しい一首だ」と激励のお言葉をはからずも頂戴した。

叱られはしまいかなどと思ふ仰ぐ人の伝記読みつぐ時に

仰ぐ人とは、もちろん浪沢翁である。翁の伝記や伝記資料などを、仕事から解放された夜分など、読みかつそれに沈潜することは、実に大きな喜びであり、心の安らぎを覚えるひと時なのである。

そして、読みつぐわが為す事に於て叱られることのないようにしようと自らに言い聞かす。論語を常に携えて生きぬいた翁の温容を鮮やかに思い浮かべながら。

そうした時に、不思議なるかな、六十を過ぎたこの身に気力の満ちる事に気づくのである。

さて、青洲研究に大きな刺激を与

えてくれたのは長兄・荏塚一三郎である。次は年頭の一書。

初春を来春間もなき兄と二人青洲翁忠恕の精神語らむ

浪沢栄一は、近代実業の偉大にしてユニークな建設者である。それと同時に商業教育や女子教育、労資協調、社会公共事業、および国際親善について、たぐい稀なる実践者であったのである。

そして、これらの事業には論語の精神をもつてのぞんだのである。一語で言えばそれは忠恕の精神である。

新春を迎えるや兄と私はひざつき合せて、私心なき翁を敬慕して語り合う。幸せなひと時なのである。

その兄も健康をそこねていま病床の生活を送っている。見舞った私の手を取って兄は、「浪沢翁の研究は終生続けよ」と語る。この一言を大事と受けとめ、私は決して忘れることがないであろう。

それは昨年の九月一日であつた。よってこの日を以て青洲研究記念日にしよと考えている。そして兄の悲願に忠え得るよう、やがて来る日の試みに思いをめぐらせている次第である。(深谷市教育長)

全ての催し物は無料です。主催館(印)が会場です。詳細は県立各館へおたずねください。

県内図書館めぐり

伊奈町立図書館

文教都市をめざす伊奈町に、待望の図書館が昨年七月にオープンしました。

閑静な住宅街に囲まれ、小室氷川神社に隣接する図書館は、みどりの屋根にとんがり帽子をかぶり、左右に白い翼をひろげた外観で、利用スペースをすべて一階に集め、体の不自由な方も利用できるように書架間を十分広くとり、図書館資料はできるだけ一般図書と参考図書などを区別なく並べて、利用者が必要とする資料や情報を制限せず活用できる混配方式をとり、速くまちがいになく貸出しができるようにコンピュータによる蔵書管理を行い閉館時間も夕方六時までとし、利用者に便宜をはかっています。

開放スペースには落ちついた雰囲気のある一般書コーナー、子供達にとって夢のある楽しい家具を配置した児童書コーナー、くつろいだ気分になれる新聞・雑誌コーナー、その他集会所などの設備が整っています。

開館に至るまで、町の図書館活動を支えてこられたボランティアの方々と連携して、できるだけ多くの町民のみなさんに図書館資料を活用していただき、生活の中に読書がくり広げる楽しみ・教養・問題解決等の手がかりを提供できるよう職員も一生懸命頑張っています。

施設の概要

鉄筋コンクリート造二階建
一階（一般書コーナー・児童書コーナー・新聞・雑誌コーナー）
二階（事務室・書庫）
建築面積 七〇三㎡
延床面積 八〇七㎡



所在地 北足立郡伊奈町小室

電話 〇四八七―二二一〇〇一七

読書グループの紹介

「かたつむり」

北川辺町

読書グループ「かたつむり」は発足して十年になります。PTA活動を通じて知り合った仲間同志の強い要望により誕生したもので、現在会員は十三名です。

最初は、個人の家で集まりを持っておりましたが、その後町の民俗資料館を使用させていただき、月一回の例会を開いております。今までに七十冊余りの本を読んで意見交換や感想などを話し合っており、移動図書館の貸出文庫を利用していただきました。

毎年一月に、親睦会を持って一年間の本の選択やその他の計画などを話し合います。又、年一回文学散歩として日帰りの研修旅行を実施しており、これらの行事は会員の皆さんに大変うけております。それから「著者を囲む会」などにも時間の都合のつく限り参加して視野を広げてまいりました。

りました。
一昨年、町の教育委員会により文化協会が設立され、私達もこれに加入いたしました。そして、初めて昨年の十一月文化祭に参加したのですが、内容については大きな課題をかかえることになりました。
先日、新緑の古都「鎌倉路」を歩きました。木立の中に、鎮座まします数々の仏像や建物、家並との調和、そこはかとなく歴史の深さを感じ、心穏やかな一日を過ごしました。
これからも、急がず、焦らず、「かたつむり」のように、一步一步着実に歩んで行きたいと思っています。
(関千代)



“洪 沢 栄 一”

洪沢栄一（一八四〇―一九三二）は、榛沢郡血洗島村（現深谷市）に生まれ、実業家・社会事業家として活躍しました。折から開かれた88さいたま博覧会においても多くの人が洪沢栄一館を訪れ、その業績を偲びました。こうしたことは、県民の洪沢栄一に対する関心の表れの一つではないでしょうか。

そこで今回は、県立図書館で所蔵する洪沢栄一の著作及び彼に関する本を紹介いたします。

記載は、書名、著編者（洪沢栄一著は省略）、出版社、出版年、所蔵館の順となっています。

洪沢栄一の著作
雨夜譚 洪沢栄一述 岩波書店 一九八四
九八四
（浦・熊・川・久）
経営論語 経営思潮研究会編 徳間書店 一九六五
（浦・熊）

自己開発の道 太陽社 一九二九

洪沢栄一訓言集 竜門社編 国書刊行会 一九八六
（浦・熊・川・久）

洪沢栄一全集 第1巻―第6巻 平凡社 一九三〇
（浦・熊）

洪沢翁は語る 其生立ち 岡田純夫編 斯文書院 一九三二
（浦・熊・川・久）

青淵回顧録 上・下巻 十貫修二郎編著 青淵回顧録刊行会 一九二七
（浦・熊・川・久）

青淵詩歌集 洪沢敬三編 角川書店 一九六三
（浦・熊・川・久）

青淵洪沢栄一の書 深谷郷土遺墨集刊行会編 蔵南堂書店 一九八四
（浦・熊・川・久）

青淵修養百話 乾・坤 井口正之編 同文館 一九一五
（浦・熊）

青淵先生演説撰集 竜門社 一九三七
（浦・熊）

青淵先生訓話集 竜門社 一九二八
（浦・熊・川・久）

青淵百話 乾・坤 国書刊行会 一九八六
（熊・川・久）

昔夢会筆記 徳川慶喜公回想録 洪沢栄一編 平凡社 一九六九
（浦・熊・川・久）
村莊小言 実業之世界社 一九二六
（浦・熊・川・久）

立会略則 須原屋茂兵衛 一八七二
（熊・川）

徳川慶喜公伝 第1―第4 平凡社 一九六七―一九六八
（浦・熊・川・久）

徳川慶喜公伝 史料編 洪沢栄一編 東京大学出版会 一九七五
（熊・川）

世渡りの道 修文館 一九二九
（熊）

論語と算盤 洪沢栄一述 梶山彬編 大和出版 一九八五
（熊・川・久）

洪沢栄一に関する著作
巨いなる企業家・洪沢栄一の全研究 日本株式会社をつくった男 井上宏生著 PHP研究所 一九八三
（浦・熊・川・久）

国宝洪沢栄一翁 洪沢栄一翁頌徳会編 実業之世界社 一九五四
（浦・熊）

埼玉の先人洪沢栄一 荊塚三郎・金子吉衛共著 さきたま出版会 一九八三
（浦・熊・川・久）

洪沢栄一 日本経済近代化の恩人 坂田吉雄著 民主教育協会 一九六八
（熊）
洪沢栄一 洪沢秀雄著 ポプラ社

一九六九
（浦・熊）

洪沢栄一 洪沢秀雄著 竜門社 一九六七
（熊・川・久）

洪沢栄一 望月芳郎著 紙硯社 一九四三
（浦）

洪沢栄一 山口平八著 平凡社 一九五五
（熊）

洪沢栄一翁 白石喜太郎著 刀江書院 一九三三
（浦・熊・川）

洪沢栄一翁の論語処世訓 片山又一郎著 評言社 一九七三
（浦・熊・川・久）

洪沢栄一言行録 長沼依山著 三省堂 一九三九
（浦）

洪沢栄一伝 幸田露伴著 岩波書店 一九三九
（浦・熊・川・久）

洪沢栄一伝 幸田露伴著 洪沢青淵翁記念会 一九三九
（浦・熊・川・久）

洪沢栄一伝 土屋喬雄著 改造社 一九三二
（浦・熊）

洪沢栄一伝記資料 第1巻―第58巻 別巻1―10 竜門社編 洪沢栄一伝記資料刊行会 一九五五
（浦・熊・川・久）

洪沢栄一と振善会 田村俊夫著 近代セールス社 一九六三

〔浦・熊〕
洪沢栄一のころざし 山岸達児著
教育出版センター新社 一九八八

〔浦・熊〕
洪沢栄一評伝 生駒泰造著 有楽社
一九〇九

〔浦・熊〕
洪沢翁と青淵百話 白石喜太郎著
日本放送出版協会 一九四〇

〔浦・熊〕
洪沢翁の面影 白石喜太郎著 四條
書房 一九三四

〔浦・熊〕
洪沢子爵実業王となるまで 長沼依
山著 荻原星文館 一九三〇

〔浦・熊〕
洪沢先生とその郷土 血洗島青淵会

〔浦・熊〕
編 血洗島青淵会 一九四〇

〔浦・熊〕
攘夷論者の渡欧 父洪沢栄一 洪沢
秀雄著 双雅房 一九四二

〔浦・熊〕
青淵洪沢栄一翁写真伝 野依秀市著
実業之世界社 一九四一

〔浦・熊〕
青淵先生余香 爪生光村編 修養団
休後援会 一九二八

〔浦・熊〕
青淵先生六十年史 一名近世実業
達史 第一巻・第二巻 竜門社編
一九〇〇

〔浦・熊・川〕
太平洋にける橋 洪沢栄一の生涯
洪沢雅英著 読売新聞社 一九七

〔浦・熊〕
父洪沢栄一 上巻・下巻 洪沢秀雄
著 実業之日本社 一九五九

〔浦・熊〕
父洪沢栄一 心のアンテナ 洪沢秀
雄著 ポプラ社 一九七〇

〔浦・熊〕
人間洪沢栄一 学習まんが 矢野功
作・画 竜門社 一九八八

〔浦・熊〕
日々に新たななり 洪沢栄一の生涯
下山二郎著 国書刊行会 一九八

〔浦・熊・川〕
論語と洪沢翁と私 上・下の1 岸
信介著 実業之世界社 一九六〇

編集後記

うっとうしい梅雨空が続いていますが、お元気ですか。具立四館共同の広報「図書館だより」三六号をお届けします。本年度から各号に特約的な企画を取り入れ、より多くの県民の方に読んでいただくよう工夫して行きたいと思っています。まず、本号では「さいたま博」で多数の入場者を集めた郷土の先覚者・洪沢栄一翁にスポットをあて関連する内容を特集しました。特に、深谷市教育長島塚先生からは洪沢翁への思慕の念を短歌に託して綴られた玉稿をいただき、感謝申し上げます。また、県立図書館の現況等をデータを中心に掲載しましたので、参考にしてください。ければ幸いです。

おたすねください

問 さいたま博のような地方博
覧会の開催が多いが、その理由
と開催状況を知りたい。

答 博覧会には昭和60年の国際
科学技術博覧会のような条約に
基づき国が行う国際博覧会、都
道府県等の自治体規模の地方博
覧会があります。予想を超える
二五〇万人の入場者で盛況裡に
閉幕した88さいたま博覧会を始
め、ここ数年地方博の開催が相
次ぎ、「地方博覧会の時代」（毎
日新聞63年5月10日）という状

況を呈しています。
さいたま博が、①県民の旺盛
な活力を生かし、21世紀に向け
て飛躍する県土構築の足がかり
とする②産業・経済・文化の各
般にわたり、県の自立化を進め
る起爆剤とする③県民が郷土の
素嗜らしさを再認識するととも
に広く内外に埼玉の現状と可能
性をアピールする場を提供する
（公式ガイドブック）ことを目
指したように、地方博がその地
域の経済・社会・文化の振興、

活性化に与える効果が極めて大
きい（通産省イベント研究会報
告等）ことが地方博隆盛の理由
といわれます。

開催状況 昭和58年4件、59年
6件、60年3件、61年6件、62
年7件、63年 さいたま博・瀬
戸大橋架橋記念博（岡山県・香
川県3月20日～8月31日）、な
ら・シルクロード博（奈良県4
月24日～10月23日）、青函トン
ネル開通記念博（北海道・青森
県7月9日～9月18日）、ぎふ

中部未来博（岐阜県7月8日～
9月18日）、食と緑の博（兵庫
・栃木・岐阜・石川各県9月～
11月）、64年 アジア太平洋博
・横浜博・全国菓子大博・89海
と島の博・世界デザイン博・世
界のおもちゃ博、65年 長崎旅
博

〔参考資料〕
イイベント戦略データファイル（第
一法規）、電通広告年鑑87、地域
開発 二七八号、自治研修 三三
五号、三四〇号